

平成25年度 新宿区多文化共生まちづくり会議

第6回「外国にルーツを持つ子どもの教育環境の向上」部会 議事概要

日 時 平成26年3月17日（月）10:00～12:00

場 所 新宿区役所本庁舎6階 第2委員会室

出席委員 山脇委員、藤田ラウンド委員、小島委員、センブ委員、シュレスタ委員、小林委員、
梶木委員、盛委員、李委員、梶村委員、本多委員 11名

欠席委員 川村委員、金世煥委員、リコ委員、乾委員 4名

1 開会

2 中間のまとめの修正について

○事務局から文言修正について報告を受けた。

3 答申作成スケジュールについて

○8月の答申に向けて、部会のほか、ワーキング・グループを開催することで一致した。

4 答申作成方針について

(1) 全体構成

(2) 部会の提言内容

(3) 実現に向けた具体策

○事務局から(1)～(3)について説明を受けた。

・ 鈴鹿市や豊橋市の推進協議会や連絡協議会のように、教育環境向上のためのシステムを維持していく体制が必要である。

・ 文部科学省の「「特別の教育課程」による日本語指導の実施」通知を受けて、区はそれにどのように対応していくのかを提言に盛り込みたい。

・ 区の日本語指導には、教員以外のボランティア等が多く関わっているため、そういった支援者向けの研修の充実も必要ではないか。

・ 支援者たちが子どもに接するなかで、子ども本人や保護者等から受けた相談ごとや見えてきた問題を行政に届ける際の相談先がわかりにくい。相談を受け、問題解決のために学校や行政等の関係機関にかけあう、コーディネーターのような存在が欲しい。

・ 子ども総合センターや子ども家庭支援センター等が子どもに関する相談を受けられること、日本語で相談できない場合は通訳がつけられることを、多言語のチラシ等を用いて、

外国人保護者に周知する必要がある。

- ・外国にルーツを持つ子どもの支援に関する情報は全て揃うような、多言語のリーフレットを集めたポータルサイトが情報提供の仕組みとして有効ではないか。
- ・外国にルーツを持つ子どもたちへの支援にとどまらず、ホスト社会である日本人側の意識へ、外国にルーツを持つ子どもに対する理解や多文化共生の推進を働きかける視点も提言に入れたい。

5 その他

6 閉会